



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第十五号〕

大暑

たいしよ

七月二十三日

## よぼ談義

子どもたちの夏休みが始まりました。宇治の方に夏休みの思い出をうかがうと必ず「よぼ」の話になります。そして、うかがうたびに新しい発見があります。

「よぼ」は宇治橋に近い五十鈴川の中ほどにある三角形の岩、烏帽子岩えぼしのあたり。「よぼし岩」とも呼ばれます。まだ進修小学校にプールがなかった頃、ここが宇治の子どもたちの水練場でした。

夏休み、昼食を食べ終わると、すぐさま「よぼ」へ。十二時三十分くらいから待っているけれど、まだ泳がせてはくれません。一時頃、その日の「よぼ」の監視担当の大人がカラランカランと鐘を鳴らすといっせいに川へ。河原から川中の烏帽子岩まで泳ぐことができるのが、小学校四年生くらい。六年生ともなれば岩にある穴をくぐり、岩の上で甲羅干しをするのが男の勲章でしたと六十代の男性は教えてくれました。水練中は川の中に旗を立てるのが慣例。白旗が「入って良し」、赤旗は「陸に上がれ」の目印です。「よぼ」は水面から一M下までの水温は高いものの、その下は冷たく、十分泳いで、休憩を十五分とることを見計らっていました。女子はあまり泳がなかったと聞いていましたが、今回は六十代の女性も河原のあたりで泳いでいたと教えてくれました。

もう一世代上の方たちは、夏は夕方になると銭湯ではなく、タオルをもって「よぼ風呂」へ水浴に行ったといいます。その頃はまだ五十鈴川に堤防はなく、土手だった時代。「よぼ」で洗濯もしたし、土産店の団体客名を書いた看板を毎夕洗ったのもこの河原だったそうです。へえ、そうだったんですか。宇治の夏は「よぼ談義」で始まります。

文 千種清美